

3学期がスタートしました

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。
1月10日(土)が本校入試ということから、早い3学期の始業式となりました。朝から正門で、登校する生徒諸君と挨拶しましたが、みんなやる気に満ちた表情でした。私自身が安心すると共に、やる気をもらい元気になりました。[生徒諸君のエネルギーは素晴らしい](#)です。

始業式では、私から以下の話をしました。(一部省略)

あけましておめでとうございます。穏やかな正月だったり、目標に向けて頑張ったりだったでしょう。新年と3学期の始まりという節目を迎えました。

先ほど発表してくれた皆さんの新年の抱負は、立派な内容でした。特に、3年生の発表にあった「[凡事徹底](#)」。[3年生だからこそ大切に](#)してほしいこと。

節目に目標を持つことは大切です。竹が強いのは「節」があるからです。人も同じで、節目を意識することで、次の一步を踏み出す力が生まれます。是非、新年の抱負を。目標は立派でなくて構いません。大切なのは、[比べる相手は他人ではなく、昨日や去年の自分](#)だということです。一步でも前に進んでいけば、それは成長です。君たちは間違いなく成長している。

校長として、中学校時代にこそ習慣にしてほしいこと、特に意識してほしいことは「[気の利いた挨拶](#)」と「[時間管理](#)」です。社会に出てから必ず役に立ちます。時間管理は、寒い時期だからこそ、特に朝の時間を意識しましょう。

「早し良し、ちょうど良し危なし、遅し悪し」私が中学生時代言葉です。

3学期は一年のまとめであり、新年度につながる大切な学期です。自分の目標を大切に、自分のペースで歩み、今年を「やり切った」と言える一年にしていきましょう。共に充実した3学期を創りあげていきましょう。

始業式での学年代表発表

各学年代表生徒が、[力強い抱負](#)を述べてくれましたので、紹介します。

【1年4組 垣内心和】

二学期に積極的に取り組んだことの一つ目は、合唱コンクールの練習です。私はアルトのパートリーダーとして合唱練習をしました。たくさんの課題が見出される中で特に大変だったのが音量のバランスです。私たちは何度も話し合い、声を録音して聞き返したり、姿勢を指摘するなどして課題点を解決できるように実践しました。さらに、先輩方の歌声を聞いて学び、自分たちでは気づくことのできない点は直接指導してもらいました。どんどん歌声が出来上がっていくのにもなって、全員の想いが一つにまとまっていくのを実感しました。歌い始めの頃よりも結束は固まり、その状態で挑んだ合唱コンクールは今までで一番の最高の歌声をホール全体に響かせることができました。「全力疾走」を目標に練習に取り組んだ一か月間は、学校生活をより充実させるだけでなく、クラスの団結力をさらに高め、全員が1の4魂を実感した時期ともなりました。

二つ目は探究発表会です。私は「緊張をどうすれば和らげることができるのか」という課題を探究しました。熊本大学を訪問し、緊張の根本は何なのか、脳つまり身体的にはどのように連動しているのかを質問しました。本だけでは理解できない仕組み、より深掘りした話など、訪問して聞かないと味わえない、濃厚な時間を過ごすことができました。その後に教えていただいた緊張の和らげ方は、緊張の原因や根拠がもとになっており、その方法の意味を十分に理解することができました。

探究発表会の準備期間では、班員と、どうしたら難しい用語などをわかりやすく伝えることができるかを考え、簡単なクイズ形式で楽しみながら理解できるような工夫を取り入れました。発表会当日、最初こそ緊張していましたが、仲間とリハーサルをするにつれ、自信が湧き結果的には発表は大成功となりました。今後は、行動を行ったのち、探究のまとめに入ります。その際には「[自他の幸福](#)」を行動の中心に置いて活動していきたいです。

そして三学期に私が特に頑張りたいことは「挑戦」です。「挑戦」は学年目標でもあり、一年生の中心ともなっているものです。学年の最後でもある三学期は、これまで約九か月間で積み重ねてきた経験や考えを振り返り、それらを最大限に生かせる大切な期間だと思います。失敗を恐れず、自分から行動することを意識し、これまでよりも一步成長した自分になれるよう、たくさん挑戦

していきたいです。

三学期は、総代会会長として、一年生が二年生に進級した時に当たり前に挑戦できるようにするための基盤作りの時期だと思います。当たり前に挑戦できるという理想の二年生像を胸に、約三ヶ月間、自分は何ができるかなと常に問い続けながら、悔いのない学校生活を送りたいです。

【2年4組 井本麻友】

冬休みが終わり、今日から後期後半が始まります。

後期後半は、これまでの学びや経験を土台にし、次の学年へとつなげていく大切な時期です。後期前半では、修学旅行をはじめとするさまざまな行事を通して、クラスとして大きく成長することができました。その一方で、後期後半は「成長を実感する」だけでなく、「その成長を形にして残す」ことが求められる期間だと考えています。

後期前半の経験から、私たちのクラスの強みは、話し合いを重ねる中で互いの意見を尊重し、合意点を見つけていけるところだと思います。しかし、行事や活動が増えるにつれて、意見が出にくくなったり、役割が一部の人に偏ったりする場面もありました。後期後半では、こうした点を改善し、クラス全員が関わっているという実感を持てる雰囲気づくりが課題だと感じています。

そこで、三学期の私のテーマを「やってみたいことを後回しにしない!」としました。自信がなくて迷うことや、誰かがやってくれるだろうと思ってしまうこともあります。そうした場面こそ自分から一歩踏み出すことを意識したいです。

具体的には、クラスの中で意見が止まってしまったときに自分の考えを言葉にすること、頑張っている人や困っている人に気づいたら前向きな声かけをすること、そして任された役割を最後まで責任を持ってやり遂げることを大切にします。また、行事や課活動だけでなく、日常の授業や生活面でも時間と行動の切り替えを意識し、周囲に良い影響を与えられる存在になりたいです。

後期後半は、学年としてもクラスとしても「まとめ」の時期です。私自身が行動で示すことで、クラスの雰囲気がさらに良くなり、下級生にも伝わる学年像をつくっていかれたらと思います。

まだ未熟な部分もありますが、三学期の終わりにクラス全員が「この一年で成長できた」と心から感じられるよう、後期前半で得た学びを行動に変え、毎日大切に過ごしていきたいです。クラスのみんなと協力しながら、明るく充実した後期後半をつくっていききたいと思います。

【3年4組 村上愛弥】

2026年が始まりました。卒業のときに「最高の中学校生活だった」と思えるために、二学期の振り返りと三学期の目標の二つを発表します。

まず、二学期は合唱コンクールの指揮者という大きな挑戦をしました。練習では、他の組の歌の完成度の高さに焦りを感じることが何度もありました。しかし、他の組の友人たちも私と同じように、焦りを感じていると話しているのを聞き、皆同じような気持ちで練習に取り組んでいることがわかり、より一層頑張ろうと思いました。中学校最後の合唱コンクールで指揮者という大役に挑めたこと、そして残念ながら優勝をすることはできませんでしたが、他の組と切磋琢磨しながら練習を重ね、自分たちの満足のいく演奏ができ、とても良い経験になりました。三学期は、クラスの仲間と一つのことを全力で取り組んだ経験を入試に向けてなど、様々なことに活かしていきたいです。

また、二学期といえば生徒会執行部や部活動のリーダーなど、学校のさまざまな役職が三年生から二年生に世代交代しました。そのなかで、自分自身が心の中で「もう引継ぎは終わったのだから、自分たちには関係ない」と思っていることに気がつきました。しかし、よく考えると私たち三年生はリーダーという立場は担っていないかもしれませんが、卒業しているわけではなく、引き続き学校を支える立場であることに変わりはないことに気がつきました。

そこで三学期の一つ目の目標は、凡事徹底をこころがけ、掃除や挨拶など日常生活で当たり前のことをできるようにして、よりよいクラスや学年、そして学校になれるよう支えていきたいです。

三学期二つ目の目標は、卒業までの残り少ない時間をクラスや学年の友人たちと楽しむということです。高校入試も近くなり、雰囲気がピリピリしてしまうこともあると思いますが、こんな時期だからこそ、友人たちと楽しく話したりして過ごす時間はとても大切だと思います。卒業までにいろんなかけがえのない思い出を作って行けるよう、日頃から友人との関わりを大切にしたいです。この二つの目標を大切に、卒業までの約2ヶ月を充実した時間にしたいです。最高学年としての自覚を持ち、友人と楽しく過ごす。この経験は、きっと高校生活やその先の未来でも役立つはず。仲間と過ごす日々を大切に、心身ともに成長し、充実した毎日を送りながら、最高の形で中学校生活を締めくくりたいです。

皆さん、人生に二回目はありません。たとえ失敗したとしても、その経験は必ず自分にとって価値のあるものになるはずです。だからこそ、後悔のないように、自分なりの一歩を踏み出し、さまざまなことに挑戦してみてください。